

「イクメン」と聞いてどう思うっつ

○妻と全く同じ職場というところもあり、分担制で何でも協力してきた。仕事で疲れてはいるが、寝かせて子どもの笑顔を見るとやはり楽しい。

○イクメンという言葉は聞いていたが、内容的にはかなり怪しい。育児への抵抗はほとんどなかった。できる範囲で育児にも協力していくという姿勢である。

○父親が子育てをするのは当たり前前のごとく考えて始めたが、今やほとんどのことをやっていると状態。母親が外で働き、自分は自営業という関係で、自然とそのような形になった。

○店と住まいが一緒になってから、子どもと接する機会が多くなったが、子どもの世話には妻に任せることがほとんど。子どもと外へ遊びに出るなどはしている。

○イクメンという言葉には、何かこびへつらって、持ち上げて男にいろいろさせようという感じを受ける。育児はやってみると楽しいが、本音はやりたくない。

○遊びに連れだしたときなど、喜んでいて子どもの顔を見ると楽しくなる。一方、たまにはゴロンとしたい時がある。

○それほどのことはやってない。嫌がらずにやってくれるパパを指して言っているのかな？

○家にはイクメンはいない。世の中に本当にいるのかなあ？二十代パパにイクメンが多くて三十代後半は少ないかな？

○うちは一〇〇％イクメンの旦那。文句のつけようもないイクメン以上の旦那。

○育児に協力しないことがありえない。共働きで男の子三人は一人では無理。特に、長男が難病を持って生まれたから、ほかの家庭とはスタートが違った。協力体制なくして子育ては無理な状況だった。

○私は長男出産後入院。協力せざるをえない状況。保育園の送り迎えと一緒に育児に関わっているから成長が分かって可愛いと感じる。

○夫はやってくれるが、楽しんでいないのか疑問。きっかけは切実な状況から始まった。今のイクメンはやっていることは同じでも楽しんで自分分のためにやっているところが違うのではないかな？

○夫は家事はできないが、育児には協力してくれた。子どものためなら卵焼きにチャレンジなどもしてくれた。

しかし、帰毛の遅い夫は、

いので、何とも言えない。ただ、妻と考えると意見のズレが生じたとき、やはり普段面倒を見ていた妻が圧倒的に強うのは辛い。

○保育園への送りや、週に一度早く帰って子どもの迎えをやったりしている。しかし、たまに遅刻してしまうなど、職場に迷惑をかけているのでは…、という思いはいつもある。

○疲れている時でも、子どもの笑顔は嬉しい。ただ、子どもの送り迎えなどしているが、これが当たり前と思わなくて欲しいし、感謝の気持ちで欲しい。

○保育園で教わったことを披露する子どもを見て、その成長ぶりが楽しくなる。しかし、同僚と一杯やろうとする時、子どもの事情で早く帰らなければならず、なんとなく疎外感を感じてしまうことがある。

○子どもにこまごまと小言を言うところは母親的なのかな。ただ、お金を使うにしても、今は全て子ども中心に変わってきたから、やはり父親なのかなと感じる。

○父親としての実感が無い。遊んでやったり、一人前になるために何か教えてやること

○育児休暇などの取得率が低いのは、やはり本人が「取りたくない」という意識が第一の要因だと思う。また、上司の無理解もある。

○男は残業しても稼ぎ、家に金を持って帰るものというプライドが抜け切れていない。昨今では、出世に響くことや、いつ解雇されるかなどの不安も残る。

○長期休暇を取ってやるのはかなり厳しいので、一週間に一日取得するというのがいいのではないかな。

○正直なところ仕事の方が楽しい。休暇を取っても、世間体のあるあるし、長期間仕事を離れることへの不安もある。

○制度や法律が後押ししているとはいえず、やはりゆっくりにした歩みで変化させていくしかないのではないかな。皆さんのような考え方が本音なのかなと思う。

○最後に全体を感へる。子育ては一人ですべてを担うのではなく、協力し合おうとする。イクメンは自ら「やる」というイメージがあるけれど、父親は、いつ父親になれるのかなあ？

イクメンのイメージは？夫はイクメンとして子育てを楽しくしていますか？

○遊びに連れだしたときなど、喜んでいて子どもの顔を見ると楽しくなる。一方、たまにはゴロンとしたい時がある。

○それほどのことはやってない。嫌がらずにやってくれるパパを指して言っているのかな？

○家にはイクメンはいない。世の中に本当にいるのかなあ？二十代パパにイクメンが多くて三十代後半は少ないかな？

○うちは一〇〇％イクメンの旦那。文句のつけようもないイクメン以上の旦那。

○育児に協力しないことがありえない。共働きで男の子三人は一人では無理。特に、長男が難病を持って生まれたから、ほかの家庭とはスタートが違った。協力体制なくして子育ては無理な状況だった。

○私は長男出産後入院。協力せざるをえない状況。保育園の送り迎えと一緒に育児に関わっているから成長が分かって可愛いと感じる。

○夫はやってくれるが、楽しんでいないのか疑問。きっかけは切実な状況から始まった。今のイクメンはやっていることは同じでも楽しんで自分分のためにやっているところが違うのではないかな？

○夫は家事はできないが、育児には協力してくれた。子どものためなら卵焼きにチャレンジなどもしてくれた。

しかし、帰毛の遅い夫は、

父親としての実感

○料理は嫌いではなく作るのだが、自分の味との好みが違うように、誰も食べてくれない。洗濯、掃除など妻ができていないところをやっている。手の空いた時に、互いに手伝い合うというスタンス。

○やるもの、やれないものを分けていく。分担を決めたわけではないが、休日の子どもを面倒見るのはどちらか

イクメンを阻害するものは何か

○料理を作ったりするのは好きで、酒を飲みながらやっていると、手が空いていけばやる。洗濯、掃除など妻ができていないところをやっている。手の空いた時に、互いに手伝い合うというスタンス。

○やるもの、やれないものを分けていく。分担を決めたわけではないが、休日の子どもを面倒見るのはどちらか

最後に全体を感へる

○子育ては一人ですべてを担うのではなく、協力し合おうとする。イクメンは自ら「やる」というイメージがあるけれど、父親は、いつ父親になれるのかなあ？

イクメン座談会

市内某所に育児に奮闘中の市民による覆面座談会を実施しました！

【女性編】

- Aさん 三十代 専業主婦
- Bさん 三十代 フルタイム
- Cさん 四十代 フルタイム
- Dさん 四十代 フルタイム
- Eさん 三十代 専業主婦

【男性編】

- Aさん 三十代 自営業
- Bさん 三十代 サラリーマン
- Cさん 四十代 サラリーマン
- Dさん 四十代 サラリーマン
- Eさん 三十代 自営業



○子育ては無理な状況だった。私は長男出産後入院。協力せざるをえない状況。保育園の送り迎えと一緒に育児に関わっているから成長が分かって可愛いと感じる。

○夫はやってくれるが、楽しんでいないのか疑問。きっかけは切実な状況から始まった。今のイクメンはやっていることは同じでも楽しんで自分分のためにやっているところが違うのではないかな？

○夫は家事はできないが、育児には協力してくれた。子どものためなら卵焼きにチャレンジなどもしてくれた。

しかし、帰毛の遅い夫は、

○子育ては無理な状況だった。私は長男出産後入院。協力せざるをえない状況。保育園の送り迎えと一緒に育児に関わっているから成長が分かって可愛いと感じる。

○夫はやってくれるが、楽しんでいないのか疑問。きっかけは切実な状況から始まった。今のイクメンはやっていることは同じでも楽しんで自分分のためにやっているところが違うのではないかな？

○夫は家事はできないが、育児には協力してくれた。子どものためなら卵焼きにチャレンジなどもしてくれた。

しかし、帰毛の遅い夫は、

○子育ては無理な状況だった。私は長男出産後入院。協力せざるをえない状況。保育園の送り迎えと一緒に育児に関わっているから成長が分かって可愛いと感じる。

○夫はやってくれるが、楽しんでいないのか疑問。きっかけは切実な状況から始まった。今のイクメンはやっていることは同じでも楽しんで自分分のためにやっているところが違うのではないかな？

○夫は家事はできないが、育児には協力してくれた。子どものためなら卵焼きにチャレンジなどもしてくれた。

しかし、帰毛の遅い夫は、

○子育ては無理な状況だった。私は長男出産後入院。協力せざるをえない状況。保育園の送り迎えと一緒に育児に関わっているから成長が分かって可愛いと感じる。

○夫はやってくれるが、楽しんでいないのか疑問。きっかけは切実な状況から始まった。今のイクメンはやっていることは同じでも楽しんで自分分のためにやっているところが違うのではないかな？

○夫は家事はできないが、育児には協力してくれた。子どものためなら卵焼きにチャレンジなどもしてくれた。

しかし、帰毛の遅い夫は、

○子育ては無理な状況だった。私は長男出産後入院。協力せざるをえない状況。保育園の送り迎えと一緒に育児に関わっているから成長が分かって可愛いと感じる。

○夫はやってくれるが、楽しんでいないのか疑問。きっかけは切実な状況から始まった。今のイクメンはやっていることは同じでも楽しんで自分分のためにやっているところが違うのではないかな？

○夫は家事はできないが、育児には協力してくれた。子どものためなら卵焼きにチャレンジなどもしてくれた。

しかし、帰毛の遅い夫は、

○子育ては無理な状況だった。私は長男出産後入院。協力せざるをえない状況。保育園の送り迎えと一緒に育児に関わっているから成長が分かって可愛いと感じる。

○夫はやってくれるが、楽しんでいないのか疑問。きっかけは切実な状況から始まった。今のイクメンはやっていることは同じでも楽しんで自分分のためにやっているところが違うのではないかな？

○夫は家事はできないが、育児には協力してくれた。子どものためなら卵焼きにチャレンジなどもしてくれた。

しかし、帰毛の遅い夫は、

○子育ては無理な状況だった。私は長男出産後入院。協力せざるをえない状況。保育園の送り迎えと一緒に育児に関わっているから成長が分かって可愛いと感じる。

○夫はやってくれるが、楽しんでいないのか疑問。きっかけは切実な状況から始まった。今のイクメンはやっていることは同じでも楽しんで自分分のためにやっているところが違うのではないかな？

○夫は家事はできないが、育児には協力してくれた。子どものためなら卵焼きにチャレンジなどもしてくれた。

しかし、帰毛の遅い夫は、

○子育ては無理な状況だった。私は長男出産後入院。協力せざるをえない状況。保育園の送り迎えと一緒に育児に関わっているから成長が分かって可愛いと感じる。

○夫はやってくれるが、楽しんでいないのか疑問。きっかけは切実な状況から始まった。今のイクメンはやっていることは同じでも楽しんで自分分のためにやっているところが違うのではないかな？

○夫は家事はできないが、育児には協力してくれた。子どものためなら卵焼きにチャレンジなどもしてくれた。

しかし、帰毛の遅い夫は、

○子育ては無理な状況だった。私は長男出産後入院。協力せざるをえない状況。保育園の送り迎えと一緒に育児に関わっているから成長が分かって可愛いと感じる。

○夫はやってくれるが、楽しんでいないのか疑問。きっかけは切実な状況から始まった。今のイクメンはやっていることは同じでも楽しんで自分分のためにやっているところが違うのではないかな？

○夫は家事はできないが、育児には協力してくれた。子どものためなら卵焼きにチャレンジなどもしてくれた。

しかし、帰毛の遅い夫は、

○子育ては無理な状況だった。私は長男出産後入院。協力せざるをえない状況。保育園の送り迎えと一緒に育児に関わっているから成長が分かって可愛いと感じる。

○夫はやってくれるが、楽しんでいないのか疑問。きっかけは切実な状況から始まった。今のイクメンはやっていることは同じでも楽しんで自分分のためにやっているところが違うのではないかな？

○夫は家事はできないが、育児には協力してくれた。子どものためなら卵焼きにチャレンジなどもしてくれた。

しかし、帰毛の遅い夫は、

○子育ては無理な状況だった。私は長男出産後入院。協力せざるをえない状況。保育園の送り迎えと一緒に育児に関わっているから成長が分かって可愛いと感じる。

○夫はやってくれるが、楽しんでいないのか疑問。きっかけは切実な状況から始まった。今のイクメンはやっていることは同じでも楽しんで自分分のためにやっているところが違うのではないかな？

○夫は家事はできないが、育児には協力してくれた。子どものためなら卵焼きにチャレンジなどもしてくれた。

しかし、帰毛の遅い夫は、

○子育ては無理な状況だった。私は長男出産後入院。協力せざるをえない状況。保育園の送り迎えと一緒に育児に関わっているから成長が分かって可愛いと感じる。

○夫はやってくれるが、楽しんでいないのか疑問。きっかけは切実な状況から始まった。今のイクメンはやっていることは同じでも楽しんで自分分のためにやっているところが違うのではないかな？

○夫は家事はできないが、育児には協力してくれた。子どものためなら卵焼きにチャレンジなどもしてくれた。

しかし、帰毛の遅い夫は、

介護保険の現在と未来

社会保険審議会委員として介護保険制度に直接関わってきた先生から、介護現場の実情をリアルに伝えていただきました。

ノンフィクション作家 沖藤 典子さん

冒頭、「介護保険に申し立ては前提としてできて良かった制度です」という言葉からこの講座は始まりました。この介護保険利用者の七二％は女性です。このことから介護問題は女性問題であるとも言えます。そして、介護保険を利用している方の四六％は八五歳以上です。今八五歳の方は終戦時二〇歳でした。その戦争を知っている方が今、要介護者です。「利用者約半数が戦争経験者である介護保険のシステムはこのままでよいのか？」と沖藤先生は問題提起されました。介護保険は五年ごとに法改正、三年ごとに報酬改定を行います。先生は二回の報酬改定と一回の法改正の審議に関わっておられました。

日本社会の高齢化は少子化問題とリンクしていると先生はおっしゃっています。日本の出生率は先進国の中でも特に低く、そのため内閣府は「前例のない高齢社会」と認めているようです。日本の高齢化社会は一九七〇年に始まったので、その流れが四十年間進んできたに最後の十年おっしゃっていました。

その他にも利用する上で問題も多く、二〇〇四年から給付制限を設け、同居家族が居る人は制限が付き、その中には昼間独居や寝たきりの高齢者夫婦の人たちも含まれています。でも同居の定義が変わることで五分の同居場所に住んでいても同居扱いになる場合もあって、「同じ保険料を払い同じ認定を受けながら同じサービスを受けられないのは平等ではないのではないか」との議論がなされているようです。

先生は、「国は高齢者に清潔と適切な栄養を保障しなくてはならない。軽度者をボランティアに任せるといった話もあるが、社会制度として確立していかなければ立ち行かなくなると思っています。その制度化していく中で訪問介護員の働きやすさは重要で、国の制度の中で働くためにはきちんとした賃金を支払ってほしい」と話されていました。

最後に、「介護保険は人生晩年に利用するもの。人をお見送りする国家の礼儀として、煩雑な制度、細かな制約、働きにくい制度にするべきではない。介護保険の本丸は軽度のうちから栄養を守ることにあるのではないかな」という介護保険の本質を教わりました。

○子育ては無理な状況だった。私は長男出産後入院。協力せざるをえない状況。保育園の送り迎えと一緒に育児に関わっているから成長が分かって可愛いと感じる。

○夫はやってくれるが、楽しんでいないのか疑問。きっかけは切実な状況から始まった。今のイクメンはやっていることは同じでも楽しんで自分分のためにやっているところが違うのではないかな？

○夫は家事はできないが、育児には協力してくれた。子どものためなら卵焼きにチャレンジなどもしてくれた。

しかし、帰毛の遅い夫は、

あくしゅフォーラム
～ぎまの男女共同参画社会の実現をめざして～

と き 3月5日(土) 午後1時30分～4時 (午後1時開場)

ところ ハーモニーホール座間 小ホール (市民文化会館)

内容 ブックオフコーポレーション(株)取締役会長の橋本真由美さんによる「パートタイムスタッフから経営のど真ん中へ」と題した講演。